

闇社会うごめく

揺らぐ

カード社会

下

スキミング事件の衝撃

金曜日の夜、リーダーの携帯電話から数人の男たちに連絡が入る。指定場所でパソコン車に乗り込み、十時間以上かけて四国や九州、東北に向かう。家電量販店で「買い子」たちは、偽造クレジットカードの限度額までカメラやパソコンを購入。東京で「バッタ屋」と呼ばれる古物商に売りさばいた。

「小遣い稼ぎの感覚だ。フリーに次々と情報を転写した。」

偽造担当の中国人は頻繁に入れ替わる。メンバー同士が互いの詳しい素性を知らないことも多く、摘発されても解明が難しい構造になっている。元組員は「リーダーの上に大ボスがいて、背後に暴力団や中国マフィアが控えている」と大規模な組織性をおわせた。

中国マフィアと交流がある中国人男性は「偽造技術は、中国人や中国系マレーシア人が持ち込んでくる。パチンコでの裏ロム、ビットキング、スキミングとどんどん手を変えている」と言った。

指定暴力団山口組、住吉会、稲川会。一月に摘発されたキャッシュカード偽造団の主犯格藤原高

暴力団、外国マフィア



偽造団がカード情報を盗んでいた群馬県内のゴルフ場のロッカー。身近な温浴施設やスポーツクラブでも同様の被害が出ている

「便利になるほどスキだらけ」

広容疑者との関係先からは、大量の暴力団関係者の名刺が押収された。ヤミ金融が社会問題化した旧三菱関係者も含まれた。日本中の暴力団が登場する」と警視庁幹部は交友の広さに舌を巻いた。

藤原容疑者は複数の暴力団関係者に、数千円を送金したことが判明している。偽造カードでの預金引き出しは、中国人が担っていた。スキミング道具の提供や中国人の紹介には暴力団の関与が疑われるが、藤原容疑者の口は堅い。

警察庁が二月にまとめた暴力団情勢では、恐喝や賭博などの伝統的資金獲得活動は影を潜め、詐欺や窃盗が増加。昨年摘発された偽造高利貸や年末年始の偽一万円札の事件にも暴力団が関与した。一月に摘発された振り込め詐欺集団は、元暴走族の少年らを実行部隊に百億円ともみられる巨額を稼ぎ、暴力団に上納された疑いが強い。

「全国どこでもカードで買い物ができ、ATM(現金自動預払機)で金を下ろせる。足のつかないモバイル式携帯電話で簡単に連絡を取り合える。便利になればなるほどスキだらけだ」と元組員は笑みを浮かべた。警視庁幹部は市民一人ひとりが、便利さゆえの落とし穴を自覚すべき時代になった」と指摘する。(この企画は北川成史、比護正史が担当しました)